

## コリント人への手紙第一 第 12 章 27 節

COVID-19 の事象は、グローバル化され競争原理で進む世界への警告ではないでしょうか。立ち止まり、今までを振り返り、どうだったのか考えるときかもしれません。他の生き方があります、と問いかけているようです。

状況が危機的になり、色々な動きがあります。一つは国境閉鎖、もう一つは世界的協力です。さらに加えて、国々のリーダーが発した要請です。各国の応答を見ると、大なり小なり個人主義のほつれが明らかに見られます。

国境閉鎖、協力、個人主義と相反するかのような要素が矢継ぎ早に発出されます。問われているのは、良い方向に向く共通の思いがあるかどうかです。仮に、共同体意識、信頼関係、思いやりがあっても、さらにこれらの基となる三つあります。共同体を生みだすもの、信頼関係を支え、そして、確かな目指しが有るか無いかです。

決定的で、なお最終的な目指しは眼前の危機を乗り越えることでも、共同体意識を高めることでも、信頼関係を強化することでもありません。究極的目指しは、すべての欠けを満たす、かしらなるキリストご自身を世界が発見すること、そしてこのお方を世界が認めることです。